

市民協働かわら版

No.29

発行：泉南市総合政策部政策推進課
〒590-0059 泉南市樽井一丁目
TEL：072-482-0004
(平成二十八年十一月一日発行)

十月二十六日(水)に平成二十八年度第七回「泉南・市民まちづくりサロン」が泉南市立東小学校で開催され、十名(市民八名、職員二名)の参加でサロンが始まりました。【共催：泉南市ABC委員会】当日のテーマと主な意見は次のとおりです。

①国際交流について

「これからは教育に力を入れていくべきだ。特に国際交流に力を注ぎ、若い人たちには、海外に行っていたら他国の文化等を学び、泉南市に活かしてもらいたい。海外に行く自身の考えが変わるかもしれない。国際交流で海外に行けるという夢を持たせることで、学力が向上するのではないか。また、海外から招き、紀泉わいわい村で宿泊体験してもらい、交流することもよいのではないか。」

②東信達地区について

「信達葛畑や信達楠畑は幹線道路から距離があり、若年層も他地域に転出し、過疎化が進んでいる。世帯数も二十世帯もない状況である。」

「信達童子畑は、現在施設に入所している人数を除くと約百五十人くらいであるが、八十歳以上が三十人くらいおり、極端に高齢化が進んでいる。」

「若い人たちが居住するのに一番気にしているのは、トイレ等の水洗化ではないか。合併浄化槽ならまだよいが、昔からの汲み取り式では嫌がり、自分の子どもたちもそれが理由で居住してくれない。」

「どのようにすれば若い人たちや他地域からの転入者が増えるか、考える必要があるのではないか。」

「古民家を再生し、それを提供して、居住してもらえばよいのでは。」

「高齢化が進むと、自動車も運転できなく

なり、この地域での生活が心配される。買い物難民の対策も必要。」
「コミュニティバスは市の公共施設等が停留所となっていることが多いので、そこにスーパーなどを追加できないか。」

「車の移動販売があればいい。商工会で実施してもらえないか。」
「大型ショッピングセンターもいいが、駅前が閑散となるのはよくない。花咲きファームの小売店などが駅前であればよいと思う。」

「農業に従事しているが、アライグマやイノブタの鳥獣害がある。特にイノブタ。対策が大変。栗・芋・スイカ等が大好きで果物類は防ぎようがない。空き家を根城としている。捕獲用の檻を仕掛けても中々入らず、学習しているようだ。遠くから山の尾根を通って来ている。我々の姿を見ても逃げない。タケノコなども掘ってよく食べている。そのようなことで山間部での生活は大変と思う。」

今回は、開催場所が東小学校ということもあり、地域特有の話で盛り上がりました。また部屋が図書室であったので、参加者から蔵書が充実しているなどの感想がありました。

他にもいろいろな意見があり、時間が過ぎるのも忘れるほど、参加者の皆さんが活発に、自由に、楽しく話し合いをしていました。

今回は十一月十六日(水)午後一時三十分から市立新家東小学校で開催する予定です。多くの市民の皆さまの積極的なご参加をお待ちしています。

